

石巻市立大川小学校

2014年 12月 28日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

(1)「大川小学校事故検証 事実情報に関するとりまとめ」大川小学校事故検証委員会(2013年10月)

【場所】

追波湾まで約4km、北上川から約200mの位置にある。

住所:宮城県石巻市釜谷山根1



赤い範囲:石巻市

石巻市

緑の範囲:大川小学校

【東日本大震災による被害】

津波により約10mの高さまで浸水。これにより2階建て校舎が全壊。

【震災当日の様子】

地震が起こった時、ほとんどの学年は帰りの会の最中で、3年生はすでに解散しており、4年生は教室で歌の練習をしていた。地震の揺れを机の下でやり過ごし(1次避難)、教職員の呼びかけで校庭に避難した(2次避難)。この時、停電で校内放送は使えず、教職員は直接教室を回って呼びかけをした。

14時52分頃、防災無線で大津波警報が伝えられており、地域住民が10～10数人学校に避難してきていた。小学校はハザードマップの津波浸水予測域から外れた避難所に指定されていた。また、この頃に保護者への引き渡しも開始された。15時25分頃、市の職員が体育館に地域住民の避難の受け入れが可能かどうかを確認しに来た。対応した教職員は落下物が多くて危険なため利用ができないと伝えたとされている。また、この頃に三角地帯への移動を開始した(3次避難)。移動を開始した頃、先に避難先の様子を見に行った教職員が「津波がきていますので皆さん急いでください」と声をかけた。この呼びかけを聞いて、避難の列は乱れ、小走りですぐ先を目指した児童もいた。校庭から150mほど移動して県道に差し掛かったあたりで、先頭にいた一部の児童が新北上大橋直下付近から津波が越流し、住宅を破壊する様子を目撃した。津波を確認した児童は来た道を走って戻り、正面の山の斜面を駆け登った。津波を目撃していない児童には、逃げている児童の行動の意味が理解できなかったと推定される。児童が移動を続ける中、津波は大川小学校まで到達した。

地震発生当時、大川小学校の学校管理下には105名の児童がおり、その内73名が避難中に被災した。また、教職員も12名中10名が被災している。(1)

【調査して言えること】

学校の標高は約1mで、海からは約4km離れているが、一級河川である北上川から200mしか離れておらず、地震の際に津波を警戒する必要がある学校である。学校から北上川は近い場所にあり川の堤防は見えるが、川の様子を直接見ることは難しい。また、学校の南側は山になっているが斜面は整備されておらず、素早く登ることは難しい。

学校から北東に600mほど離れた場所に山に登ることができる道があり、この道を道なりに400mほど行くと標高50m以上の場所へ上がることができる。しかし、学校から山まで移動する時に海に近づくこととなるため、津波の避難経路としては選択しにくい経路である。また、学校から東に約1km離れた場所にも山に登ることができる道があるが、海に近づく経路を取るため、避難経路にするには難しい。

学校の近くに山はあるが、道が整備されていないため登ることができず、高台への避難が難しい学校である。



新北上大橋(西から見た川と学校(2014/11/2撮影))



学校南側の山の斜面(2014/11/2撮影)

※写真では確認しにくいですが、手作りの津波到達点の看板が斜面中にある。